

金水：谷口先生のファンなんで、うれしいです。加えて、お顔も好きなんです（笑）
 仲野：ほんまですか <失礼
 金水：よう見てください。かいらしい顔してはりますし。
 仲野：よう見なわからん、いうのがミソですね。
 金水：そこがええんです（谷口先生、知らんとこでこんなネタにしてごめんなさい）
 仲野：対談の時にお伝えしときます。って、さすがにようせんわ。
 谷口：金水先生、まあなんと嬉しいことを！ かいらしいなんて最後に言われたの、多分10年以上前です（笑）素直にありがとうございます！
 仲野先生、対談のときに観察してください（笑）お目にかかれますこと、楽しみにしております！
 仲野：あわわわっ、谷口先生、し、失礼しました。対談、何卒お手柔らかに。むちゃくちゃ楽しみにいたしております。とりあえずの予定稿として「実物はテレビで見るよりさらに別嬪」いうのをいれておきます。
 谷口：仲野先生、そんなに付度していただかなくても嘸みませんよ（笑）私もお目にかかりたかったので、楽しみにしております。よろしく願います！

某日、某踊りのお師匠さんの Facebook でのコメント（抜粋）です。



イラスト・すみのけいし

対談テーマを選ぶ基準の第一は大阪らしさです。そうなること、大阪のおばちゃんを外すわけにはいきません。しかし、人選が意外と難しい。うようよ生息しているとはいえ、おばちゃんであって、きちんとおばちゃんを語れる人となると、そう多くはないのです。そんな中、真つ先に思い浮かんだのは谷口真由美先生でした。谷口先生なら、「全日本おばちゃん党」の発起人だし、テレビでコメントターターしたはるのを見てたら、ようしゃべらはるし、なによりおもしろい。ということで、面識もツテもないけど、お願いすることに。そうしたら、前回の「浪花のモーツァルト」キダ・タロー先生と同じく快諾していただけました。しかし、いざ当日、実はけっこうビビっていたのであります。対談が決まってからのある日のこと、知り合いの踊りのお師匠さんのフェイスブックで金水敏さんと好きなことを言いあっていました。そしたら、なんと谷口先生がご降臨。あわわわっ、という展開なのであります（別掲参照）。ちなみに、金水さんは、この対談の第二回「大阪弁を考えるの巻」で登場していた大阪大学文学部長であります。というようなことがあったので、そこそこ緊張して

対談場所へ。とりあえずお詫びいたしましたところ、いえない気にしてなんかいませんよと、和やかな雰囲気でお話はスタート。さすが太っ腹！ いろんな意味で……（スンマセン、スンマセン）。開始早々、いきなり超ローカルな話題からで恐縮なんですけど、ご寛恕のほど。あ、書き忘れるところでした。もちろん、谷口先生、「実物はテレビで見るよりさらに別嬪」でした。

三歳でおばちゃんデビュー

仲野 谷口先生がお勤めの大阪国際大学は、守口市の藤田町ってところにあるんですね。

谷口 それ、「とうだ」と読むんです。大和田と萱島の間ですね。

仲野 家が千林だから、かなり近いです。

谷口 実は私、千林商店街で大きくなったみたいなんです。

仲野 えっ、そうなんですか！

谷口 祖父母の家が森小路だったんで。千林商店街に井野屋って、ありますでしょ？ 小学生のときに、あそこでオーディオセット買ってもらいました。あとは、